

平成 21 年度 第 2 回 柏原市文化財保護審議会 会議録

日時 平成 22 年 3 月 16 日 (火) 午後 3 時 00 分～午後 4 時 25 分

場所 柏原市立歴史資料館 研修室 (資料館 3 階)

出席者 委員 塚口義信 (堺女子短期大学名誉学長)、綿貫友子 (大阪教育大学教授)、
岩城卓二 (京都大学人文科学研究所准教授)、長谷洋一 (関西大学教授)、
市川秀之 (滋賀県立大学准教授)、
事務局 駒田修三 (生涯学習部次長)、北野重 (文化財課課長)、桑野一幸 (主査)、
安村俊史 (主査)、石田成年 (主査)、山根航 (囑託)

次第 開会 (午後 3 時 00 分)

会議録署名人選任 綿貫委員 岩城委員

議事 議案 1 市指定文化財の答申について

報告 1 市所在文化財等の動静について

その他

閉会 (午後 4 時 25 分)

議事 議案 1 市指定文化財の答申について

平成 21 年 7 月 17 日に開催した「平成 21 年度第 1 回審議会」において諮問した、カタシモワインフード株式会社所蔵の「太平寺の葡萄酒醸造用具」の答申について

報告 1 市所在文化財等の動静について

高井田横穴の保存整備、鳥坂寺跡の範囲確認調査、亀ノ瀬隧道の検出、それぞれについて

塚口会長により議事進行

<塚口> 市指定文化財の答申について市川委員からまず調査の報告を。

<市川> 昨年9月に事務局石田と対象を特定する調査を実施した。詳細な実測、聞き取りは未実施。まず指定をして守っていくことを指針にする。検討対象は50点。醸造の様子について知ることができるものと思う。

<岩城> 50点の資料が登録文化財である貯蔵庫の2階で常に公開されているのか。

<市川> 展示は常にされている。

<石田> 社長が醸造の歴史を話す時にこの道具類を使っている。

<岩城> たとえば建物の安全性、盗難の可能性、機械類の状態等の保存環境はどうか。

<市川> 少なくともこれがこれであるということがわかる状態にするとことと、可能であればラベルを付けて展示するとか。温湿度等は悪くはない。ガラスものが多いので慎重な対応が必要。むしろちゃんと展示してある方が安全。

<石田> イベント等に出店してワインを販売する時に古い道具を持ち出しているとも聞いている。破損する危険性はあるが有効に使っているとも考えている。

<岩城> できれば定期的に見に行く、また最低限の保存環境を保てるような援助をして活用しながら保存することでいいのでは。私は文献に関心があるので、関係の会社の資料も散逸されないように。

<石田> メンテナンスの点については指定を打つことで積極的にこちらからアプローチできるかと思う。地場産業に係る資料を初めて指定することでそれを機に思いも寄らないものが柏原市内から出てくる可能性もある。

<安村> 来年のこの時期に館の企画展でブドウをやろうと思っており、社長のOKもいただいている。古文書等について全く確認できていないがそれに向けてできる範囲での調査をしていく。

<市川> 調査がまだ十分ではないのでヒアリングをして機械の用途等を調べたい。特に重要と思われるものは実測もして他地域との比較を。日本のブドウの生産の中でどういう位置を占めるか知られていないので調査を続けたい。

<塚口> 太平寺の葡萄酒醸造用具を指定するという答申については承認。

☆塚口会長から教育長（次長が代行）に答申書を授与

報告 市所在文化財等の動静について

<北野>高井田横穴の保存整備について

- ・平成20年度から実施設計、工事を実施した。
- ・植物の根、温湿度、日射が風化進行の要因である。
- ・横穴上部から流れてくる水を排水、屋根を設置、階段形状の変更、人感センサーによ

り LED で壁画を照射、レプリカの設置。高木を伐採剪定。

- ・壁面の剥離が進んでいるところのみ樹脂塗布により強化。
- ・保存検討委員会の意見としては長期的保存は困難、短期的に経過を観察する必要がある。最良とは言えないまでも工事は終了した。

<桑野>鳥坂寺跡範囲確認調査について

- ・市政方針の重要項目として国史跡指定とその後の整備が打ち出された。
- ・奈良時代に孝謙天皇が河内六寺を参拝したことが続日本紀に記載されており、鳥坂寺はその六寺のうちの一つ。
- ・史跡指定にあたり範囲を確定するため、また建物の具体的な様相を把握するために昨年9月から継続的に発掘調査を実施している。
- ・金堂をはじめ遺構の状況が非常にいいことが全国的にも知られている。
- ・講堂周辺が特によくわかっていないので講堂の北側、西側の調査を行っている。
- ・金堂、講堂と塔のあいだの部分が近鉄大阪線に分断され、その部分がどう繋がりどういう遺構があったのかわからないのが現状。
- ・講堂周辺の調査により礎石を検出したことから、講堂に取り付く回廊が存在したであろう。区画がわかるような回廊の存在を具体的に知ることができた。
- ・地元に対して説明会を実施した。
- ・調査そのものは来年度も継続。史跡範囲を明確にし、再来年度に史跡指定をお願いするよう進めている。

<石田>亀ノ瀬隧道の検出について

- ・亀ノ瀬地すべり対策事業の一環である排水トンネルの掘削工事中の平成20年11月にレンガ構造のトンネルを検出した。
- ・明治22(1889)年に着工、明治25年1月に完成した大阪鉄道(現関西本線)による「亀ノ瀬隧道」である。
- ・昭和6(1931)年11月に始まる大規模な地すべりは、翌年には上下線それぞれのトンネルをも崩壊させ、路線は急遽対岸へ移設(現路線)された。
- ・検出したトンネルは単線2本で、排水トンネル坑口より約30メートル地点で明治期の下り線、さらに奥の約50メートル地点で大正期の上り線を検出した。
- ・昨年12月に報道提供。
- ・検出当初から国交省としては保存、活用、公開の前提で進めているが、まだ工事中有るので1-2年は見ることはできない。

<石田> 平成21年10月1日付けで生涯学習部部長に岡本彰司が着任。

- <塚口> 次年度以降の指定候補をどうするか。1年に最低一つは指定したい。
- <石田> 安福寺の内容について調査し把握する必要がある。夾紵棺についてはすでに具体的な調査が行われている。
- <塚口> 安福寺の夾紵棺はいいもので日本でも例が少ない。
- <石田> 素材調査の報告もされ、基本的なデータの蓄積はある
- <安村> 夾紵棺は今年度夏の展示でも借りることになっている。是非市の指定にしたい。
本当の意味での夾紵棺は3〜4例しか無く、これはその一つ。
- <塚口> 市の文化財として是非考えたい。次に仏像神像の盗難の問題に関して。
- <長谷> 指定にならなくてもリストは必要。調査をしたいのでご協力を。
- <塚口> (参考事案として奈良県香芝市における出土遺物投棄についてのコメント)
- <石田> 次回開催は資料館の夏季企画展開催中としたい。

以上